

平成30年度 第3回滋賀県立図書館協議会議事録

1 日時：平成31年（2019年）2月8日（金） 10:00～12:00

2 会場：県立図書館 大会議室

3 出席者：

会長 山本 昭和（学識経験者） ※（ ）内は選出分野

副会長 高浪 郁子（社会教育）

委員 荒堀 勝正（社会教育）、神部 純一（社会教育）、高澤 静香（家庭教育）、
堤 直史（公募）、安原 千佳世（学校教育）、山添 智子（家庭教育）

※五十音順

県教育委員会事務局生涯学習課 合田 遼（課長）、中嶋 智子（主査）

県立図書館 大西 良子（館長）、岡田 知己（サービス課長）、
村田 恵美（調査協力課長）

事務局 中嶋 修（副館長）、南都 奈緒子（総務課司書）

傍聴者 なし

4 次第：

（1）開会

（2）議題「これからの滋賀県立図書館のあり方」に基づく行動計画の策定およびこれによる実績等評価について

（3）利用者アンケート結果について（報告）

（4）その他

（5）閉会

5 その他：

「これからの滋賀県立図書館のあり方 行動計画」は、次のページに掲載した。

<http://www.shiga-pref-library.jp/about/arikata/>

<議事録（要約）>

1 開会・挨拶

館長：

本日は大変ご多用の中ご出席いただき、お礼を申し上げます。また、当館の事業にいつも御理解・御協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、前回 11 月の協議会では、昨年度策定した「これからの滋賀県立図書館のあり方」に基づく今後 5 年間の行動計画や数値目標の案をお示しし、それに対して委員の皆様から種々ご意見を頂戴した。その後、私どもでご意見をもとに修正を進め、のちほどご説明させていただくように、行動計画・数値目標を定めた。さらに、次回の協議会は、6 月中旬以降になるが、この計画・目標に照らして、事業の達成度を評価いただく予定。本日の協議会は、評価を行うための準備として、協議をお願いしたい。

もう 1 点、11 月 30 日から 12 月 1 日にかけて、館内で来館者に対するアンケートを実施した。利用者からは、図書館の取組やサービスをどのように評価していただいているか、今回はクロス集計等できていないが、速報としてご報告する。本日は、皆様から忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。

生涯学習課長：

日頃は、本県の子ども読書活動の推進をはじめ、生涯学習の施策に深いご理解とご支援をいただき感謝申し上げます。県教育委員会では、今年度第 4 次滋賀県子ども読書活動推進計画の策定に向けて、取り組んでいる。この計画は、平成 31 年度からおおむね 5 年間の、本県の子どもの読書活動の推進に関する方向性や、具体的な取組を示すもの。1 月から原案のパブリックコメントを行い、2 月 4 日に募集を終えたところ。現在最終案の取りまとめをしている段階で、今年度末の策定を予定しているのでご承知おきいただきたい。

さて、県教育委員会では、昨年度末に「これからの滋賀県立図書館のあり方」を策定した。これを受けて、今年度、県立図書館では、その「あり方」を具体的に実現していくための行動計画を策定や、数値目標の設定を進めた。これから取り組み状況の評価の仕組みを整え、それを回していく段階になっている。

その中で、協議会委員の皆様には、県民のご意見を代表し、客観的に県立図書館の事業を評価いただきたいと考えている。こういった実践・評価のサイクルをこれから回していくにあたり、委員の皆様にはたくさんのお骨折りをいただくが、よろしく願い申し上げます。

2 議題「これからの滋賀県立図書館のあり方」に基づく行動計画の策定およびこれによる実績等評価について

会長：

早速議事に移りたい。「これからの滋賀県立図書館のあり方」に基づく行動計画や、評価方法について、前回の協議会以降の変更点や、今後の予定等、図書館から説明をお願いする。

調査協力課長：

(策定した行動計画と数値指標、行動計画における優先取組事項について説明。また、評価の方法(案)について説明。)

会長：

ただいまの説明について、委員からご質問・ご意見があればお願いしたい。

副会長：

数値目標の中で、図書館ホームページアクセス件数を毎年 5,000 件ずつ伸ばすことになっているが、アクセス数増加のための具体的なアイデアはあるか？

調査協力課長：

ホームページアクセス数は、年度により増減が激しく、一律に上がっている、下がっているということもない。なおかつ、システム更新のたびにアクセス数の取り方が変わっているようでもある。5,000 件という数字に根拠があるわけではないが、そういった変動がある中でも、内容を充実させ、魅力的なホームページにしていくことでアクセス数を伸ばしていきたい。具体的には、検索のシステムを容易にするとか、デジタルアーカイブなどご覧いただけるページを増やすとか、ホームページ上での情報発信を増やすということなど。

委員：

数値目標に、学校図書館支援用図書の貸出し冊数が挙がっているが、この資料のターゲットは小中学校か？高校だと、一般の資料を学校向けに団体貸出してもらえ方がありがたい。市町の図書館を通じて学校に団体貸出された冊数の統計を取ることができたら、実績がもっと増えるのではないか。県立学校への団体貸出をしない市町もある。そういうところでも県立図書館の資料の貸出の仲介だけでもしてもらえると、学校図書館が豊かになると思う。

サービス課長：

学校図書館支援用図書は、学校図書館へのサポート用で、小中学校が対象のコレクションとなっている。県立高校への支援については、基本的にはその地域の図書館が支援し、それを県立図書館がバックアップする形をとりたいと考えている。県立図書館のバックアップを背景に、地域の学校図書館を支援してほしいということを、県の公共図書館協議会の場などで市町の図書館に伝えていきたい。統計については、市町の図書館を通じた貸出だと、学校に県立図書館の本がどのくらい届いているかは、今のシステムでは把握しづらい。

会長：

行動計画や数値指標は、ホームページなどで公開するのか？

調査協力課長：

図書館のホームページで公開予定。

委員：

学校図書館支援用図書の貸出冊数は、直近の平成 29 年度の実績が 150 冊だが、そこから 1,000 冊までどのように増やしていくのか？

サービス課長：

市町の図書館では、一般貸出とは別に、学校用のコレクションは持っていないことが多く、同じ時期に同じ課題が集中すると、学校数が多いところでは貸出が難しい。それを県立図書館の学校図書館支援用図書でバックアップしたい。学校の利用を増やすには、市町と学校への周知が大切だと考えている。また、大規模に増やすことは難しいが、学習指導要領の改訂などにも合わせ、コレクションの拡充も図っていきたい。

会長：

評価について。図書館協議会からの意見は、どのような手続きで評価シートに記入するのか？次回 6 月の図書館協議会の 1 回だけでできるものか？

副館長：

評価シートの上段には、6 月中旬ころまでに県立図書館が達成度、課題等を記入する。それを図書館協議会開催までに各委員に送付し、個別に意見をいただく。ご意見を集約したものを図書館協議会に諮ることを考えている。

会長：

各委員の意見の集約は誰が行うのか。図書館か、協議会か、会長か。

副館長：

事務局で整理して諮ることを考えている。

館長：

教育委員会全体の外部評価でも実施している手法。すべての委員からのご意見を載せられないかもしれないが、いくつかご意見を掲載したものを図書館協議会に諮り、承認いただければと考えている。

委員：

委員に示されるのは、図書館にて集約した意見か？全委員の意見を知らないまま、集約されたものだけを見て承認するのは無責任にならないか？

会長：

委員全員からの意見を全員で見て、全員で集約するのが一番良いと思うが、時間はかかる。各委員の意見と、集約した意見の両方を図書館協議会に出して、諮るのが良いのではないか。または、集約は会長の役割ではないかと思う。

委員：

図書館で集約したものはたたき台として、協議会の場で協議し、事務局の考えと委員の考えが異なる箇所があればそこで修正すればよいのではないか。評価を行うのが6項目なので、それほど時間はかからないと思う。

会長：

まとめると、図書館の自己評価を各委員に送付し、それに対して各委員から意見を図書館に返送する。図書館が集約したものと全員分の意見を図書館協議会に提出し、確認するという流れでお願いしたい。

館長：

そのようにさせていただきたい。

3 利用者アンケート結果について（報告）

会長：

次に、利用者アンケート結果について、図書館から説明をお願いします。

調査協力課長：

(11月30日と12月1日の2日間で実施した、利用者アンケート結果の速報について報告)

会長：

ただいまの報告について、委員から質問等あればお願いしたい。

委員：

アンケート結果を、重点課題との関わりでどのように考えるか。来館者数の増加を数値目標に入れているが、従来から大津市・草津市以外の来館者が少ない。来館者を増やすときに、大津市民・草津市民のニーズを優先的にとらえて応えるという考えか、他市町の利用を増やしていく考えか。

「本を探す」「調査」を来館目的にする人が増えてきたことから、レファレンスへの期待・ニーズが読み取れる。この部分を伸ばして、県立図書館としてのメリットを出していくことが重要。

高齢の利用者が増えてきている。来館者を増やすということであれば、高齢者の居場所づくりを考えるべき。また高齢者のうち男性の利用者は多いが、女性が少ないのはどうしてか、伸びしろと考え、分析してはどうか。高齢女性の視点に立った図書館づくり、分析は、目標達成に重要。

アクセスの悪さがやはりデメリット。遠方からは、本を借りて帰るためだけに足を運ばないと思う。文化ゾーンという環境を生かしたアピールを。展示や講演会などでタイアップして、図書館にも美術館にも行けて楽しめるというトータルのイメージで、図書館づくりを考えなければ、今の状況を打破することは難しいのではないか。公園内を散歩したりジョギングしたりする人が多くいる。高齢者の健康づくりに役立つということを打ち出し、ウォーキングの途中で立ち寄って本が読める、「心と身体と頭の健康づくりができる図書館」というようなキャッチフレーズも考えられる。文化ゾーンのネットワーク・連携の中で考えてほしい。そうすることで、来館者のニーズに応えていけるのではないか。

調査協力課長：

ご指摘ありがたく受け止めたい。県立図書館としては、大津市民・草津市民だけでなく、遠方の利用を伸ばしていけるよう、文化ゾーン全体の魅力をアピールしていきたい。

サービス課長：

アンケート結果をクロス集計して、遠方の県民がどんな目的で何を望んで来られているか、分析したい。来館頻度が高い方は、おそらく市立図書館的な利用をされているのだろうと思う。伸びしろとして考えるならば、年に数回、年に1回しか来られない方のニーズ

を分析したい。こういった方が、市町立図書館にあるような本を借りるとは思えない。なお、現在美術館が長期休館中であることや、文化ゾーン北駐車場が工事で閉鎖中のため、アンケート回答者の母数が少なくなっている。

委員：

美術館はいつ開館するのか？

館長：

新聞報道によると、施設改修をした上で 2021 年開館に向けて調整していく考えのよう。その他、連携について補足すると、県立体育館が新たに滋賀医大の隣に建設されることが決まっている。そちらからも文化ゾーン・図書館との事業連携の要請がある。図書館から健康づくりに役立つ本を出前で持って行くことや、より詳しく知りたい方のためにブックリストを提供することなどができると思う。

委員：

年配の女性が来館する図書館に、と意見があったが、女性は一人で図書館に行くよりはグループで行動することが多い。男性の方は家に居場所がなく、新聞でも読みに図書館へ行く、という利用だと思う。考えなくても良いということではないが、ほかのことに優先して女性向けに取り組みをする必要はないのではないかなと思う。

先日、美術館の出前講座の情報を、図書館に置かれたチラシから得た。女性は機動力がある。情報が得られて、おもしろいと思えば、友達と一緒に出かけるので、PR してほしい。出前講座に県立図書館の本が展示されていたが、古い本、重たい本が多く、本当に見てほしい本なのか、借りてほしい本なのか、疑問に思った。その場で気持ちが熱いうちに本を借りられたら、喜ばれるのではないかな。

約 20 年前は石山駅から図書館へのバスもあった。それがなくなって、石山周辺から図書館が縁遠くなった方もいる。アクセスの問題は重要。バス停から図書館までが遠いので、天気が悪いとき、暑いとき、寒いとき、お年寄りには特に、わざわざ図書館に行くのは億劫に感じる。予算を考えずに提案するが、返却だけ駅でできるようにするとか、1日に1～2本、駅から図書館の玄関までのバスがあれば小さいお子さんをお持ちのお母さんも来られるのではないかな。図書館をぜひ多くの方に使ってほしい。

児童書の全件購入については、絵本だけでも揃えてほしい。それがあれば、県内の遠方からでも児童書の研究をされている方が来館されると思うし、市町の図書館職員の方も選書の参考にされるのではないかな。

サービス課長：

美術館の出前講座への出張展示は、今年度からの取り組みで、至らないところもある。

土日の開催だと職員が展示に同行できず、本だけ送ることもある。職員が同行する場合は、講座参加者の方と職員がお話しながら本を紹介できる。ご意見を今後に生かしたい。その場での貸出も、昨年一度試行したことがあるが、貸出冊数はあまり多くなかった。こういったことを継続的に行うのであれば、チラシ等を書いておくと、カードを持ってきて借りてくださる方も増えるかもしれない。ただし、図書館に元々利用登録されていない方への貸出は、システム上難しい。

館長：

アクセスの話が出たが、文化ゾーン北駐車場にロータリーを作り、そこまでバスが入ってくる予定になっている。ロータリーまでバスが入って来るようになれば、利用者にとって少し便利になると思う。ただし、美術館の開館が遅れていることや、都市計画の関係もあるので、まだ見通しは申し上げられない。

委員：

専門書を求めて県立図書館を利用している。遠方になれば返却のために来るのは交通費・時間がかかり大変。大津市・草津市を除いて、市町の図書館を経由して返却できることを、もう少しアピールしてはどうか。また、困ったことがあったら多くの人がスマートフォンで検索すると思う。最初に知りたいのは図書館の開館時間と駐車場の情報。それが最初に出てくるようにし、入口を広くする方がよい。どこか市町の図書館を検索すると、その図書館の公式ホームページの次に出てくるのは県立図書館ではなく、本の検索を専門にしている民間会社が出てくる。お互いのホームページ上で、県立図書館は市町の図書館のキーワードを埋め込み、市町の図書館は県立図書館の情報を埋め込むようすることで、ホームページの連携が強くなり、検索結果に影響する。一般的に SEO（※）というキーワードで呼ばれているので、この点からもホームページ改善を検討してほしい。

（※SEOは、Search Engine Optimization の略で「検索エンジン最適化」）

副館長：

館内の図書館システム担当の委員会に伝え、検討したい。

4 その他

会長：

本日予定していた議題と報告は以上だが、ほかに図書館から報告事項などあればお願いしたい。

副館長：

昨年12月までの事業実績の概要と、来年度の主だった取り組み予定についてご報告させ

ていただく。

サービス課長：

(今年度事業実績について報告)

館長：

(次年度の取り組み予定について報告。また、2月4日に児童室に寄贈された木製家具の活用について報告。)

会長：

ただいまの報告について、質問等あればお願いしたい。

委員：

次年度の取り組みの、「読み解く力」向上支援事業に「探求的に学ぶ力育成プロジェクト」が入っているが、市町の図書館から学校への貸出充実をお願いしたい。県立学校同士の相互貸借もしているが、地理的に離れていると届かない。公共図書館、特に県立図書館の専門書は、難しいことを要求されたとき、学校ではなかなか買うことができないので、支援をお願いしたい。

委員：

活動の中で、読み聞かせボランティアと関わることが多い。どんな本がよいか悩まれているので、次年度の重点支援事業はありがたい。ぜひ広く PR してほしい。

会長：

ほかになれば、本日の協議は終了する。

5 閉会

副館長：

最後にお知らせだが、3月2日に「テレビ滋賀プラスワン」という番組で県立図書館を取り上げていただく予定。図書館の施設やサービスを PR する。ぜひご覧いただきたい。

今年度、図書館ではトイレが7月に新しくなり、あとは屋根と側壁の工事をしていた。大屋根はすでに新しいものがかかっている。側壁は落ちないように定着させ、洗浄も行った。3月完了予定で、足場も近く撤去される。文化ゾーンでは、3月中に北駐車場の工事も完了予定となっている。

次回の図書館協議会は6月後半を予定に、評価をお願いしたいと考えている。これにて

平成 30 年度第 3 回図書館協議会を終了させていただく。本日は長時間にわたり協議をいただき、感謝申し上げます。